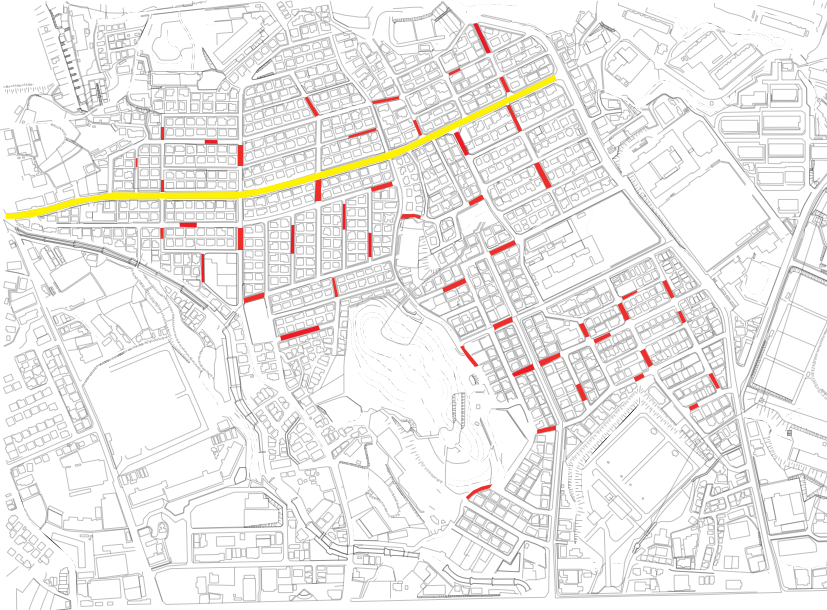
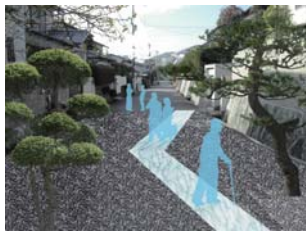


提案1 歩いて楽しい道をつくる



楽しい道
まちを横断している道

現在の単調な道を歩いて楽しいと思える道に変える計画。地面をアスファルトだけでなく芝や木や石の道のつくり道ごとに変化をつけてそれぞれの雰囲気を楽しむ事ができる。車は通りにくく、人が楽しく安心して歩ける道づくりをする。

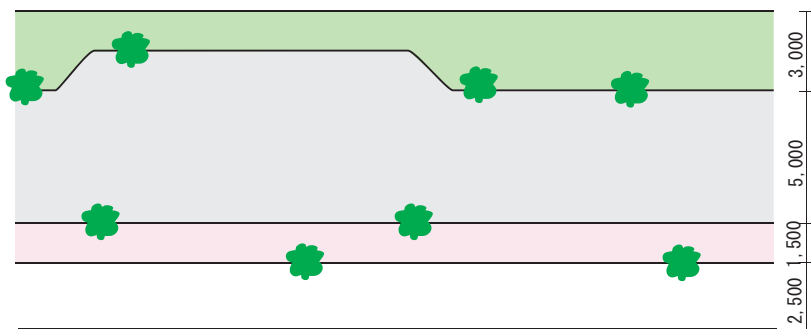
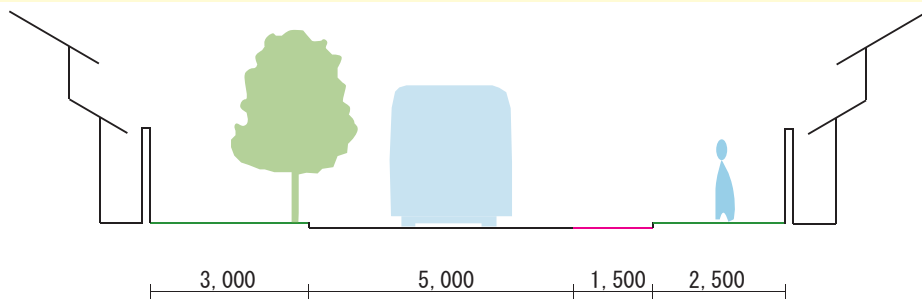


道の庭園

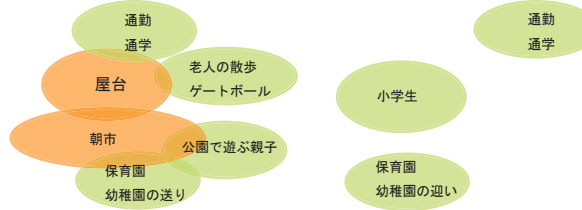
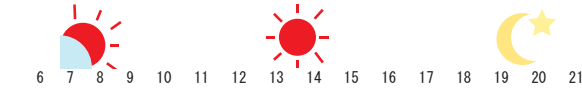


芝と石のタイル道

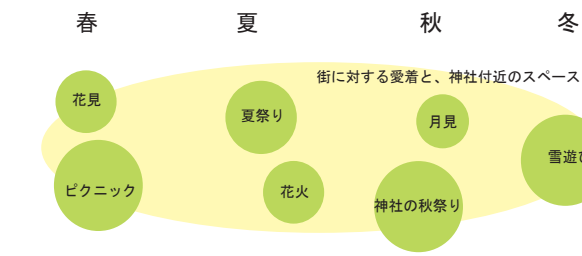
外院地区を横断し、商店街や病院、バス停がある道。現在はクルマが通りやすい道になっている。それを、一車線の一方通行の道路にし、両側の歩道を広くし自転車レーンを新たに設ける。歩行者にとって通りやすい道にする。 広がった歩道では、新たなコミュニケーションが生まれ、まちが活気付く。



提案2 神社と公園を一体化させた街の庭をつくる



公園の段差を取り、池の横にある参道と繋げ神社の周りも一体化させて街の庭のような空間をつくる。



旧参道には、開閉式のアーケードをつけ、水道の設備もつける。朝市が行われたり、家族でバーベキューをしたり、街の人々の交流の場になる。



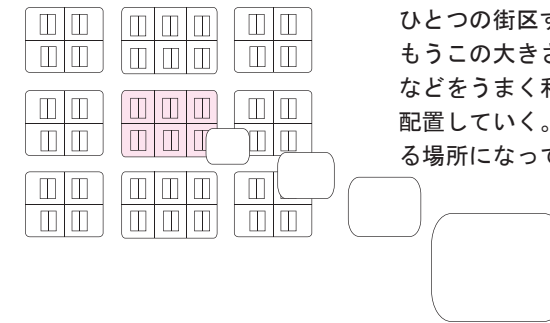
断面図



提案3 地域の核となる集って暮す場をつくる

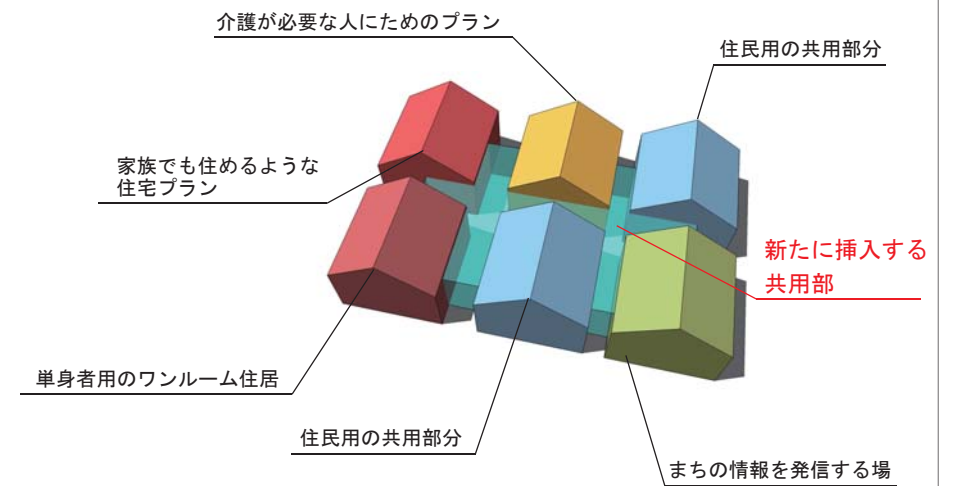
外院のような住宅街では、住民の層が偏りがちである。このようなまちで、若い単身者や、なかなか一戸建てを買うことのできない人などの様々な層の人を取り入れるために、地域の核となる集合住宅を挿入する。

ひとつの街区を例に考える。



ひとつの街区すべてを集合住宅にしてしまう。もうこの大きさの住宅が必要ない人や、空き家などをうまく利用しながら、住宅地の中に核を配置していく。まちの中の歩いていく先、集まる場所になっていく。

各住宅の間の部分に共用部を設計することで、6軒でひとつの集住にする。



Q 住民用の共用部分ってどんなところ？

- A. 例えば銭湯。
住民たちで共有することで、集住で暮らす人の住戸プランにはゆとりが生まれ、同時に普通の賃貸住宅ではできないほどの気持ちいいお風呂を作ることができる。さらにこの施設を地域に開放しながら利用していく。地域にある、リラクゼーション施設のようなものになる。安い料金でよいものを利用でき、利用料は施設の管理費に回す。
集合住宅の共用施設にすることで経済の原理から独立させこの施設を維持する。

Q まちの情報の発信地ってどんなところ？

- A. 空き家の流通などをもっと活発にしていく。
集合住宅がまちのなかに入り、一戸建てが必要ないが外院で暮らしたい人が移り住み、次の世代への住み継ぎや、また次の計画への利用を行う。
まちの中で空き家の情報だけでなく、そこで暮らすにはどうしたらいいのかなど、なかなか発見しにくい情報を発信する場にしていく。

様々な人が混ざり合い、少しずつでもまちを歩ききっかけになることが生まれる要素になるようにこの集合住宅を提案する。